



## 全国曹洞宗青年会の 活動紹介(七十)

### 頒布物

「掬斎」KISSAI

副会長

佐藤 大起

全曹青では一般の方が仏教に親しみを感じていただける様々な頒布物を製作しております。今号では「掬斎」KISSAIをご紹介します。

「掬斎」は輪島塗事業者製の箸と匙、五観の偈と普回向を印字したプラスチックプレートを応量器の匙筋袋を参考にデザインした箸匙袋に入れたマイ箸匙セットです。五観の偈プレートの二次元コードを読み取ると全曹青YouTube「五観の偈」の偈のところでいただきます」へリンクし、五観



の偈の意味を理解しながら唱えることができます。

「掬斎」は誰もが毎日欠かすことのできない食事を今一度見つめ直し、一食一食を大切にいただいてほしいという想いで始動しまし

た。昨今のフードロスや米不足により、食材を大切に扱うことは世間でも大きな注目を得ています。

目の前の食事と真摯に向き合い、感謝の想いをもって大切にいただくことは、私たち曹洞宗僧侶が修行の際、応量器を用い五観の偈を唱え食事をいただくことで行ってきた大切な御教えです。この食事への向き合い方を広く知っていただき、日々の食事を丁寧にあげたいと送っていただきたいと考えます。



また「掬齋」は令和六年一月一日に発災した能登半島地震を受け、被災地支援の一助を目的の一つとしております。寺院で使用される仏具には輪島塗を用いたものも少なくありません。震災によって多数の輪島塗事業者が被災さ

れ、復興の目途が立たず苦慮されておりました。輪島塗事業者製の箸と匙を用いたマイ箸匙セットを全国に届けたいという想いで何度か会議を重ねてまいりました。箸と匙を入れる箸匙袋もさまざまな生地から選定し、使いやすい形ながら匙筋袋の雰囲気も残してデザインしました。

「掬」という字はくみ取る、すくい上げるという意味をもち、二つの想いを「掬齋」という名前に込めております。一つ目は能登半島地震の被災地の方がたの心情をくみ取り復興の手助けとなる、二つ目は箸だけではなく持ち上げられない食材も匙を用いて残さずすくっていただく、この二つの想いをのせて製作

いたしました。

「掬齋」は令和七年三月より頒布開始し、三ヶ月ほどご注文が製作個数に達しました。Instagram広告を用い、これまで全曹青や曹洞宗を認識していなかった方がたにも届けることができました。多くの方に興味を持っていたことにより感謝申し上げます。

また「掬齋」の頒布額の一部は石川県に義援金として送金し、能登半島地震復興支援の一助とさせていただきます。



●執筆者プロフィール  
佐藤大起  
宮崎県曹洞宗青年会 所属